

7月の発生予報および防除上の注意事項

向こう1カ月間における農作物の主な病害虫の発生動向は次のように予想されます。

沖縄群島

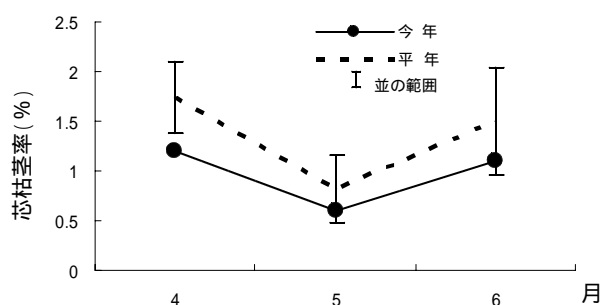
1 さとうきび

(1) メイチュウ類

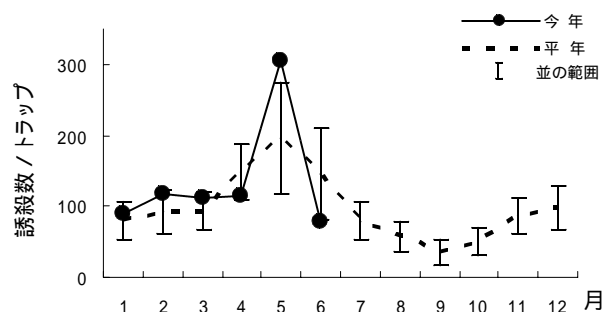
発生程度： 並

予報の根拠

- a 6月の新植圃場での芯枯茎率は1.1%（前年1.8%、平年1.5%）と平年並であった。
- b 6月のカンシャノシンクイハマキ合成性フェロモンによるトラップ当たり誘殺数は77.9頭（前年121頭、平年144頭）と平年よりやや少なかった。



メイチュウ類による芯枯茎率の推移(春植・株出)



カンシャノシンクイハマキの発生推移

防除上注意すべき事項

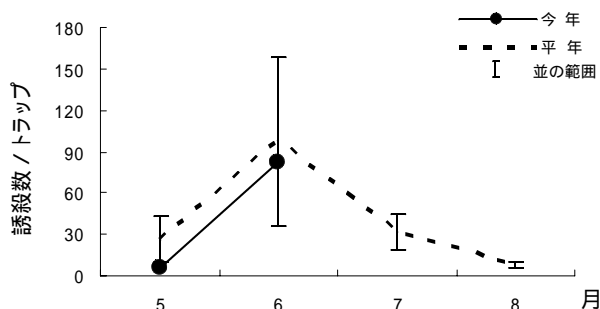
加害による芯枯を防止し有効茎を確保するため、生育初期の防除に重点を置く。

(2) アオドウガネ

発生程度： 並

予報の根拠

- a 6月の予察灯による誘殺成虫数は82.1頭（前年407頭、平年97.4頭）と平年並であった。



アオドウガネにおける発生推移

防除上注意すべき事項

- a 6～9月は成虫の発生時期にあたるので、誘殺灯の管理ならびに誘殺虫の回収処分を徹底する。
- b 7～8月は幼虫の防除適期（1～2齢期）にあたるので、被害の多い地域では防除適期を逸しないようにする。

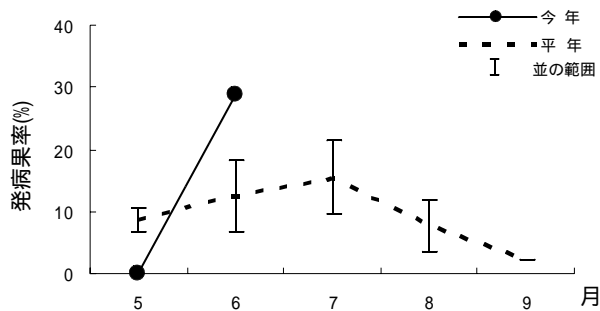
2 温州みかん

(1) そうか病

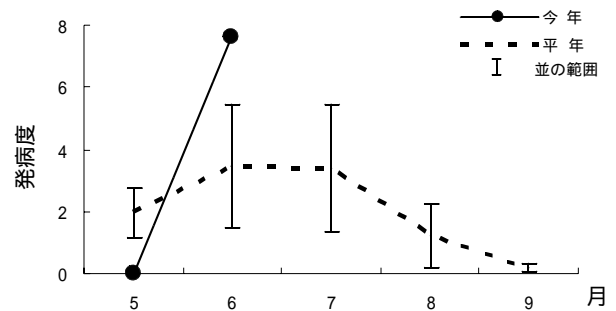
発生程度： やや多

予報の根拠

- a 6月下旬の調査の結果、果実における発病果率は28.7%（前年9.0%、平年12.5%）と高く、発病度は7.6（前年1.29、平年3.46）とやや高かった。
- b 7月の降水量は平年並みか少ない見込みであるため、発生は抑制される見込みである。



温州みかん果実におけるそうか病の発生推移



温州みかん果実におけるそうか病の発生推移

防除上注意すべき事項

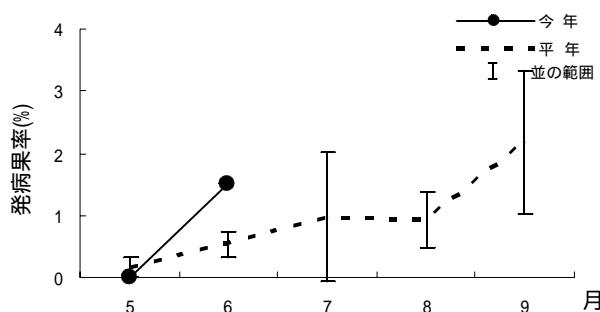
罹病した枝葉及び果実は、伝染源となるので除去する。

(2) かいよう病

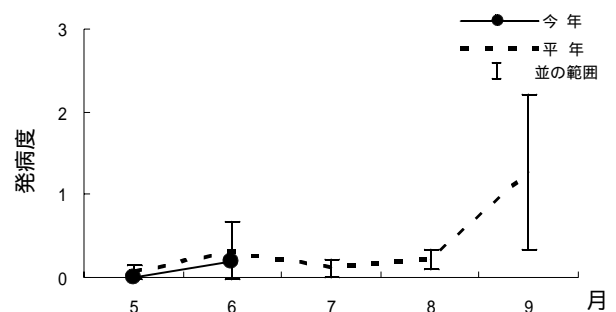
発生程度： 並

予報の根拠

- a 6月下旬の調査の結果、果実における発病果率は1.5%（平年0.5%）と高く、発病度は0.2（平年0.32）と平年並みであった。
- b 葉における発病度は0.1（平年0.29）、発病葉率は0.8%（平年1.4%）と平年並みであった。



温州みかん果実におけるかいよう病の発生推移



温州みかん果実におけるかいよう病の発生推移

防除上注意すべき事項

罹病した枝葉及び果実は、伝染源となるので除去する。

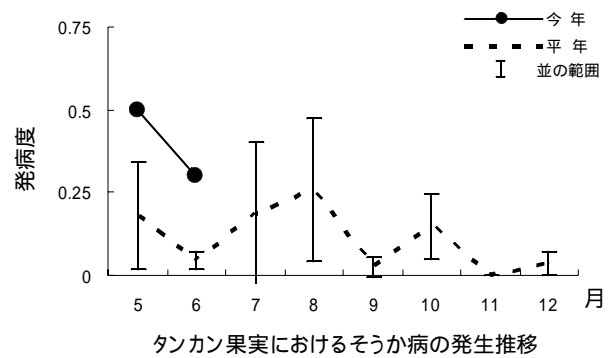
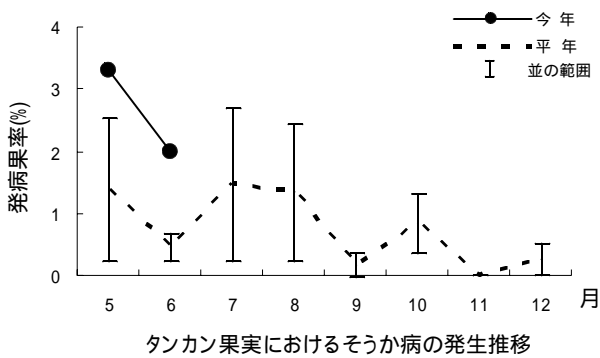
3 タンカン

(1) そうか病

発生程度： やや多

予報の根拠

- a 6月下旬の調査の結果、果実における発病果率は2.0% (平年0.5%)と高く、発病度も0.3(平年0.04)と高かった。
- b 7月の降水量は平年並か少ない見込みであるため、発生は抑制される見込みである。



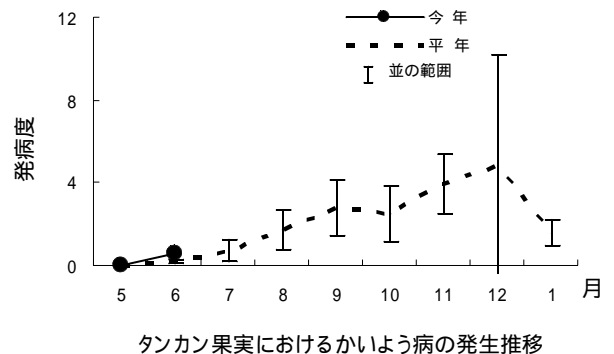
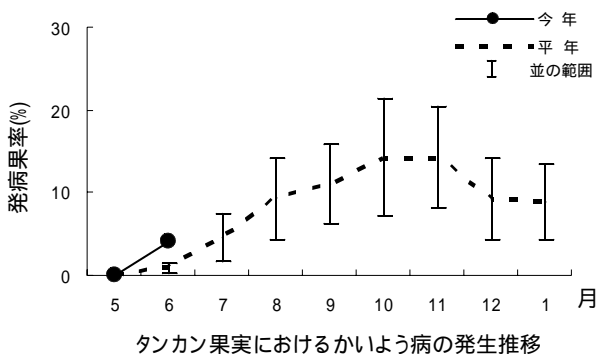
防除上注意すべき事項
温州みかんの項参照

(2) かいよう病

発生程度： やや多

予報の根拠

- a 6月下旬の調査の結果、果実における発病果率は4.0% (前年1.7%、平年0.9%)と高く、発病度も0.6(前年0.23、平年0.18)と高かった。
- b 葉における発病度は1.0(前年0.57、平年0.76)と平年並みで、発病葉率は6.0%(前年4.0%、平年2.1%)とやや高かった。

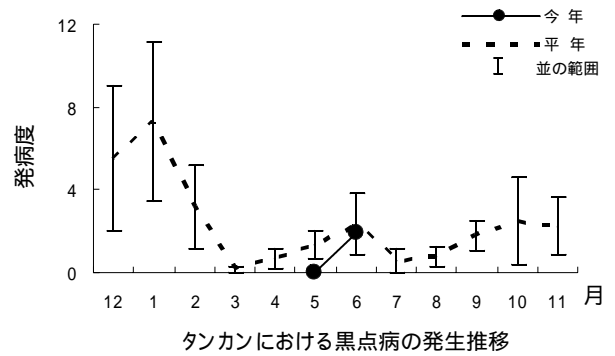
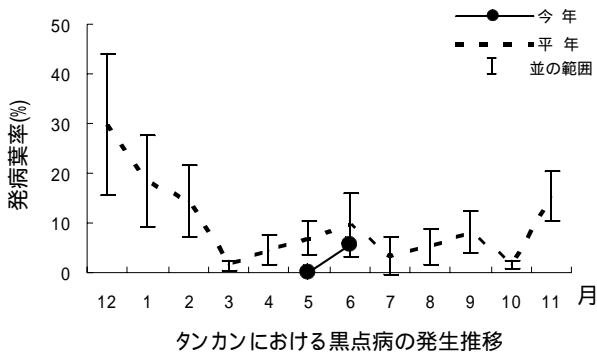


防除上注意すべき事項
温州みかんの項参照

(3)黒点病

発生程度：並
予報の根拠

6月下旬の調査の結果、発病葉率は5.6%(前年20.3%、平年9.5%)と平年並で、葉における発病度も1.9(前年2.90、平年2.35)と平年並みであった。



防除上注意すべき事項

罹病した枯れ枝は、伝染源となるので除去する。

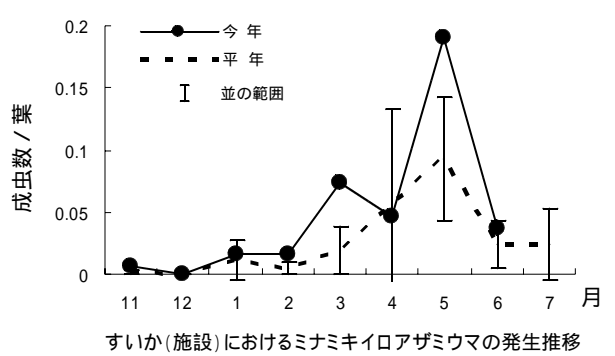
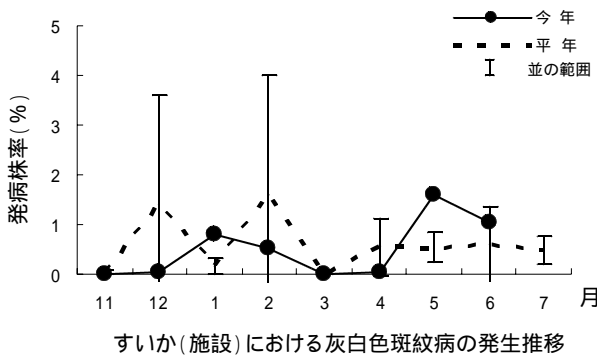
4 すいか(施設)

(1)灰白色斑紋病

発生程度：並
予報の根拠

a 6月下旬の調査の結果、発病株率は1.06%(前年0.82%、平年0.58%)と平年並であったが、一部圃場で多発生が見られた。

b 媒介虫であるミナキイロアザミウマの葉当たり成虫数は0.04頭(前年0.11頭、平年0.03頭)と平年並であった。



防除上注意すべき事項

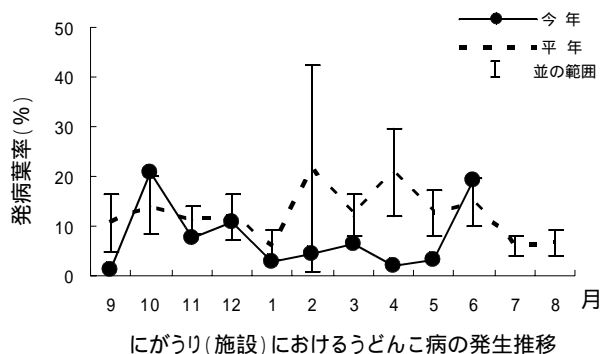
平成17年度病害虫発生予察注意報第1号(平成17年5月31日付け)参照。

5 にながり(施設)

(1)うどんこ病

発生程度： 並
予報の根拠

6月下旬の調査の結果、発病葉率は19.3%(前年7.8%、平年14.6%)と平年並であった。



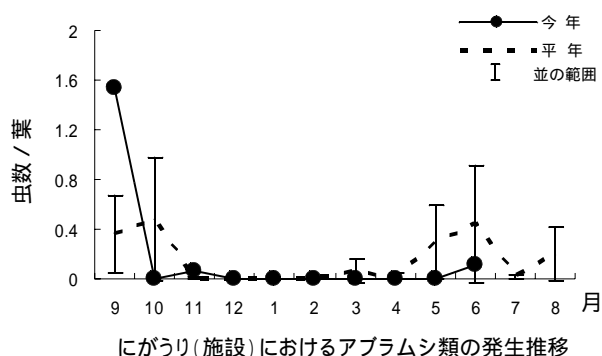
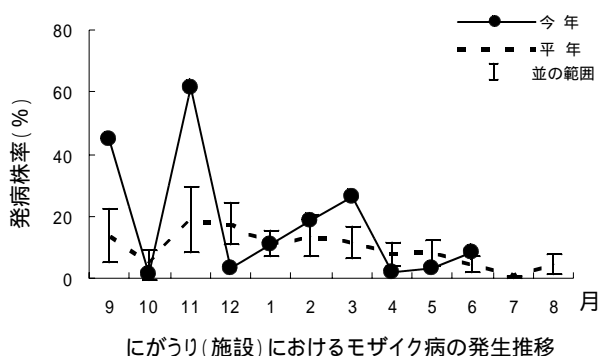
防除上注意すべき事項

- 老葉や病葉は発生源となるので、圃場内に放置せず、ビニール袋等に入れるなどして持ち出し処分する。
- 多発すると防除が困難になるので早期発見、早期防除に努める。

(2)モザイク病

発生程度： やや多
予報の根拠

- 6月下旬の調査の結果、発病株率は8.5%(前年13.4%、平年4.3%)と平年よりやや高かった。
- 媒介虫であるアブラムシ類の葉当たり虫数は0.11頭(前年0頭、平年0.44頭)と平年並みであったが、一部圃場で多発生が見られた。



防除上注意すべき事項

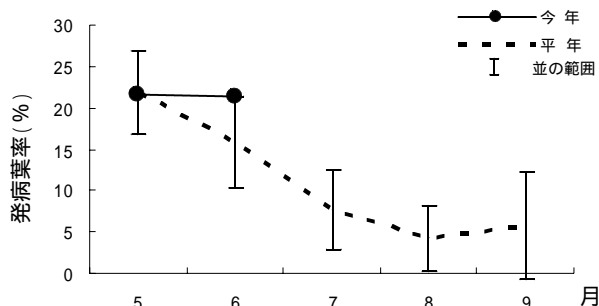
- ほ場周辺の雑草は媒介虫であるアブラムシ類の発生源となるので除草を行う。
- 近紫外線除去フィルム、シルバーポリマルチの利用、および入口、天窓、側窓にはシルバー寒冷紗等を張りアブラムシ類の飛来侵入を防ぐ。
- 果実に奇形が生じて出荷が困難になり被害が大きいため、発病株は見つけ次第抜き取り、ほ場外に持ち出し処分する。
- 本病は汁液伝染するので、やむを得ず発病株を残す場合は、発病株のある棟の収穫管理作業は最後に行い、ハサミや手の消毒、洗浄を行う。

6 にながり(露地・平張り)

(1)うどんこ病

発生程度： 並
予報の根拠

6月下旬の調査の結果、発病葉率21.4%(前年19.4%、平年16.0%)と平年並であった。



にながり(露地・平張り)におけるうどんこ病の発生推移

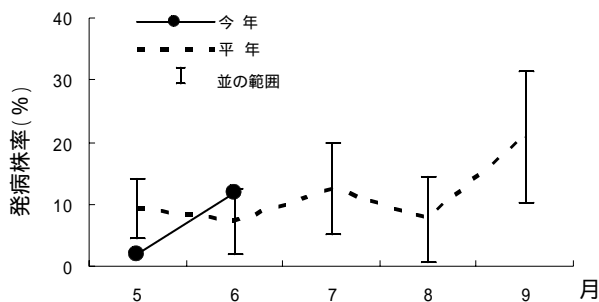
防除上注意すべき事項

- 窒素質肥料の多用を避ける。
- 密植を避け透光通風を良くする。
- 老葉や病葉は発生源となるので、ほ場内に放置せず、ビニール袋等に入れるなどして持ち出し処分する。
- 多発すると防除が困難になるので早期発見、早期防除に努める。

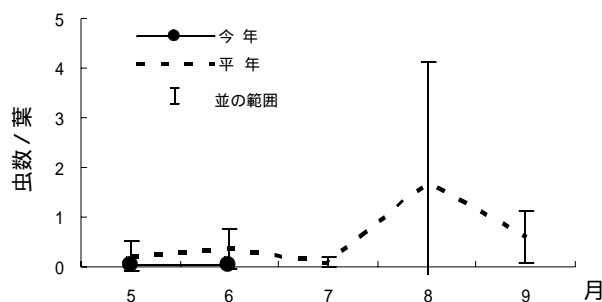
(2)モザイク病

発生程度： 並
予報の根拠

- 6月下旬の調査の結果、発病株率は11.8%(前年20.2%、平年7.3%)と平年並であった。
- 媒介虫であるアブラムシ類の葉当たり虫数は0.03頭(前年0.16頭、平年0.36頭)と平年並であった。



にながり(露地・平張り)におけるモザイク病の発生推移



にながり(露地・平張り)におけるアブラムシ類の発生推移

防除上注意すべき事項

- ほ場周辺の雑草は媒介虫であるアブラムシ類の発生源となるので除草を行う。
- シルバーポリマルチの利用や、シルバー寒冷紗等を張りアブラムシ類の飛来侵入を防ぐ。
- 果実に奇形が生じて出荷が困難になり被害が大きいため、発病株は見つけ次第抜き取りビニール袋に入れる等して圃場外に持ち出し処分する。
- 本病は汁液伝染するので、やむを得ず発病株を残す場合は、発病株のある棟の収穫管理作業は最後に行い、ハサミや手の消毒、洗浄を行う。

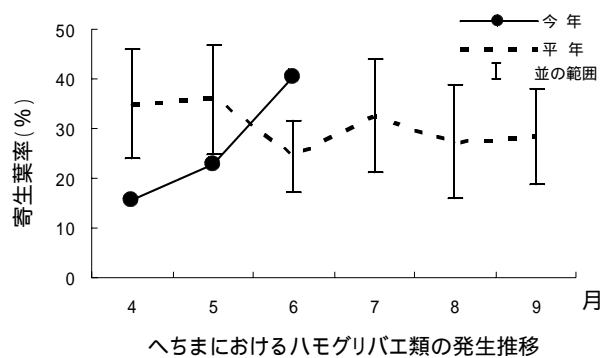
7 へちま

(1)ハモグリバエ類

発生程度: やや多

予報の根拠

6月下旬の調査の結果、寄生葉率40.6% (前年15.4%、平年24.3%)と平年よりやや多かった。



防除上注意すべき事項

- 発生源となる周辺雑草を除去する。
- 早期発見・早期防除に努める。